



戦争法案を廃案に追い込むまで、発行します。(中野貞彦)

No. 5 2015. 6. 14

☆重要な記事を集めて紹介し、短い感想、コメントを付します。出所の URL を明記します。

6 月 14 日 (日) 国会包囲 2 万 5000 人！「戦争法案、絶対反対！」 主催「戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会」、民主党の長妻昭代表代行、辻元清美政調会長代理、共産党の志位和夫委員長、社民党の吉田忠智党首が挨拶。評論家の佐高信氏、鳥越俊太郎氏、山口二郎法政大教授らも。

(中野：以下の一文、日本科学者会議武蔵野通研分会機関誌『新しい風』No.521, 2015.6 より転載)

いまや、憲法 9 条周辺緊急事態＝日本語崩壊危機事態

剣法久三

安倍川震動さんという日本でたぶんいちばん偉い人が、いまとてもハイの状態にニヤニヤしている。4 月 29 日には、「わが国と密接な関係にある他国」に呼ばれて行って、議会で演説をしたそう。尊敬してやまないおじいさん——母方のおじいさんであって何故か安倍川さんの口からは父方のおじいさんの名がでてこない——が 58 年前にこの演台で演説をしました、と切り出した時には、内心、俺も遂におじいさんに追いついた、いや抜いたかもしれない、と大喜びしたことでしょう。「わが国と密接な関係にある他国」とは言いますが、畏れ多くも、安倍川さんにとっては、昔で言えば秦の始皇帝ほどの高み。皇帝に仕える者は貢ぎ物がいるのです。「この夏までに安保法制の充実を成就します」と大見得を切って約束。そして、「私たちの同盟は、“希望の同盟”」と大はしゃぎしました。

5 月 14 日に安保法制（安倍法制？）＝戦争法案を閣議決定、その足で記者会見。安倍川さんは、「70 年前、私たち日本人は一つの誓いを立てました。もう二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。この不戦の誓いを将来にわたって守り続けていく。そして、国民の命と平和な暮らしを守り抜く。この決意の下、本日、日本と世界の平和と安全を確かなものとするための平和安全法制を閣議決定いたしました。」と、顔を赤らめて切り出しました。でも、ちょっと待ってよ、といたい。「不戦の誓い」はいいですよ、それこそ日本国憲法第 9 条ですから。だったら、なんで「平和安全法制を閣議決定」するんだよ。だれもが知っているよ、「平和」と名前を付けても、戦争をするための法案だってことを。素朴な疑問だけど、いちばん重要な問題なんだ。「国民の命と平和な暮らしを守り抜く」ためには、憲法 9 条をしっかりと守っていくのが、筋ってもんじゃないのか。それを、戦争をするための法律を作るってのは、論理的に成り立たねえ。こちとらの頭がおかしくなっちゃう。「戦争」を「平和」と言い換えれば、それで、ごまかせると思っているんだな。

いや、いや、みなさん、ここでよくよく考えてみなきゃなんねえぞよ。安倍川さんらも、まさか「戦争をするための法律を作ります」と本音をいっちゃ、いくらなんでも、世間さまが許しちゃくれめえ、ここは本音を隠して、「美しい日本」——これっ安倍川さんが大好きだよ——の綺麗な言葉本来の意味を使って、鎧を隠して、切り抜けるべし、と思っているにちがいない。ということは、言葉の本来の意味をしっかりと承知しているってことだ。

そこで、もう一步踏み込んで考えてみると、もし安倍川さんらが天下を取って「私が責任者です」——これも安倍川さんが好きな言葉だ——と言い出して何でもできるってえんで、めんどくせえ、これからは本音でいくぜ、戦争は戦争だ、と言い出すだろうか？ いやいや、それはないだろう。そうしたら、平和と言いながら戦争をする、戦争は平和だ、ということになる、いやー、ちょっと頭が混乱してきたぞ！頭を整理すると、言葉は本来の意味を持っているけれども、安倍川さんは、逆の意味、あるいは本音の意図を隠した形で使う。家来はそれに従う。マスコミもそうなる。古館さんもそうなる——今だってもうそうになっているようだけどね。そうすると、論理的な思考をすることがえらい難しくなるよね。イヤー、今だってもう安倍川さんの発言を聞いていると、頭が混乱し、精神の平衡を保つのに相当のエネルギー



戦争法案 廃案ニュース



を使っているんだぞ。

「それでもなお、アメリカの戦争に巻き込まれるのではないか。漠然とした不安をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが。その不安をお持ちの方にここではっきりと申し上げます。そのようなことは絶対にあり得ません」「海外派兵が一般に許されないという従来からの原則も変わりません。自衛隊がかつての湾岸戦争やイラク戦争での戦闘に参加するようなことは、今後とも決してない」「今回 PKO 協力を改正し、新たに国際平和支援法を整備することといたしました。これにより、国際貢献の幅を一層広げてまいります。我が国の平和と安全に資する活動を行う、米軍を始めとする外国の軍隊を後方支援するための法改正も行います。しかし、いずれの活動においても武力の行使は決して行いません。そのことを明確に申し上げます。」——これらは、ぜーんぶ、安倍川さんの記者会見での発言だぜ。信じられるかね？ もう国会の答弁でまるで反対のことをシャーシャーと言ってるぜ、野次飛ばしながら。

そうなんだ、言葉の意味を権力でもってねじ曲げて、使おうってんだ。それを許しちゃ江戸っ子がすたる——江戸っ子っていまいますかね？ うるせえ。こりゃあ、大問題だぜ、戦争法案を通してその先は憲法 9 条をぶっ壊そうって腹は見え見えだ。そうはさせないぜ！「憲法 9 条周辺緊急事態」だってんで、おれっちの周りはみーんな、デモだ国会前だって、いきり立ってるぜ。憲法 9 条周辺緊急事態ってのは、いま順々と聞かせたように、日本語崩壊危機事態でもあるんだ。どんな厳しい時代であっても、言葉は正しく使って、言葉の力で、世の中をただしていかなきゃ、なるめえよ。小林多喜二、宮本百合子、鶴彬も、みーんな、言葉の力を信じ守って闘った大先達だ。学問も思想も文学も科学も芸術も映画も演劇も音楽も絵も漫画もゲームも、スマホも——一つ多かったかな——みーんな言葉の力で一緒に守っていかなきゃなんねえ。ここまでしゃべったら、なんか、力が湧いてきたぞ！おー！腹すいた。

そうだ、安倍川もちを食べてと。

(2015.6.5 記)

(中野：言葉を正しく理解し、正しく使うことにこだわる文章にであったので、2つ紹介する。)

『東京新聞』2015.6.8

『東京新聞』2015.6.3

東 京 新 聞

独協大名教授・日本コトバの会長 下川 浩 73 (東京都足立区)

「平和安全法制整備法案」などという名づけの魔術は、もはやウソやウソを、まかすコトバの魔術を超えている。「積極的平和主義」と同様に、一般の人々のコトバづかいとはまったく逆の意味でコトバを操っているからだ。

私はこの法案を「戦争危険招来法案」と呼ぶ。ついでながら、「国際平和と支援法案」は「国際平和破壊法案」と呼ぶ。すでに「周辺事態法」制定の議論の中で、「『周辺』とは地理的な概念ではない」

ミラー

国危ういコトバ操作

と云って、コトバの意味を曖昧化させ、「武力攻撃事態法」制定の議論の中でも、「武力攻撃が予測される事態」までコトバの意味を拡大した実績が政府にはある。

だからだろうか、「周辺事態」と「武力攻撃事態」という語の代わりに「存立危機事態」とか「重要影響事態」とかいう新語を作り出した、以前のような苦しい答弁を避けたくて、さらに分かりにくい用語を使うのは……

もともと従来の政府が「不可能」と解釈していた、「集団的自衛権

行使を、現憲法下で「可能」と、立憲民主主義を破壊し、国会審議にも国民投票にもよらず、閣議決定した。さらに日米ガイドライン改定で、米国に先に約束した九条解釈の変更を、衆参両院で過半数という数の力で強引に法制化したというのだ。安保特別委での政府側答弁は、不誠実で曖昧なものにならざるをえない。

まして、五月二十八日の首相のヤジは、その資質・品格を疑わせるばかりではなく、こんな人物を首相に頂く日本国民の未熟な政治感覚を世界にさらけ出すようなものと解釈していた、「集団的自衛権

23 特 報 *11版 S 2015年(平成27年)6月3日(水曜日) 東京新聞

本音のコラム

日本語で「事態」を含む熟語といえば、緊急事態、非常事態、異常事態、くわいである。ところが今国会で政府与党が成立を目指す安保関連法案は「事態」の大安売り。

①武力攻撃発生事態とは「おおおい、ほんとに攻撃されちゃったぜ」状態。従来の政府見解で武力行使(反撃)が許されるのは、このように「実際に攻撃された」ときだけだった。それが専守防衛の意味である。

その伝でいくと、②武力攻撃切迫事態は「どう考えても攻撃されるにちがいないぞ」状態、③武力攻撃予測事態は「場合によっては攻撃されるかもしれないな」状態か。

六つの事態

斎藤 美奈子

以上は、個別的自衛権(自分たちの安全)にかかわる「事態」だが、集団的自衛権(よそんちの安全)に関係する「事態」はさらにややこしい。

④重要影響事態は「もしかしたら、わが家もやバイことになるんじゃないか」状態、⑤存立危機事態は「このままだとわが家が絶対やられてしまうぞ」状態、⑥国際平和共同対処事態は「うちは安全だけど、まあ付き合ひもあるし」状態？

④と⑤の差は誰も(答弁に立つた大臣も)わからないのに、④⑥なら戦闘の手伝い(他国軍の後方支援)ができ、⑤なら武器をもって戦闘に参加できる(集団的自衛権の行使)。①以外は攻撃されていない状態なのだ。それでも戦争に近づきすぎる。そのほうが異常事態だよ。(文芸評論家)

「戦争法案必ず止める」列島響く(『しんぶん赤旗』6.14)

6月13日各地で集会・デモが行われた！

- ☆東京大集会 1万6000人 ☆京都集会に2300人
- ☆千葉市中央公園 4000人超える 数10年間で最多
- ☆長野市 信州レッドアクション 70人デモ
- ☆静岡 パレード120人 ☆福岡 約1800人
- ☆宮城 300人 ☆奈良 楽器ならしSOUNDデモ 36人
- ☆宮城 集会&パレード 300人